



日本共産党
Japanese Communist Party

市議団ホームページ
Eメール
ブログ
和歌山市会議員団

和歌山市会議員

森下さち子ニュース

2016年7月号

http://jcpwkym.sakura.ne.jp/
jcpwkym@apricot.ocn.ne.jp
http://sachikogo.exblog.jp/
TEL(435) 1113 FAX (421) 4181



6月定例市議会報告

6月14日に開会された和歌山定例市議会は一般質問、各常任委員会の審議を経て、7月1日、すべての議案を多数もしくはは全会一致で可決しました。

日本共産党市議団は18件の議案のうち4件に反対、14件に賛成しました。反対した4件の議案に帯する討論は私、森下さち子が行いました。

農地の固定資産税が

1、8倍になる罰則とは

国が地方税法を一部改正し、農地にかかる固定資産税を課税強化します。市はこれを受けて、条例を改正し、遊休農地が農業委員会による協議の勧告を受けた場合、中間管理機構との契約をするとの意思を表明しなければ、農地の固定資産税を1、8倍にするというものです。農業では食べていけない現状の改善をしなければ、後継者も育ちません。課税強化では抜本的な対策につながらないと指摘しました。

梅雨らしい日々といえば良いのでしょうか。毎日、洗濯物を干すかどうか、天気予報とにらめっこの毎日。この原稿を書いている今日はたまたま晴天。梅雨の貴重な晴れ間で、文句なく外へ洗濯物を干してきました。でも、梅雨明けはまだまだ先のようです。この時期は食中毒を初め、体調も崩しやすいので、くれぐれもご自愛ください。

7月10日は参議院選挙の投票日、すでに期日前投票を済ませた方もあると思います。棄権しないよう声をかけ合っ
て、大切な一票を必ず行使しましょう。



<一般質問>

今回は「学童保育」と「文化会館」の2つを取り上げました。

【土曜日の開設を完全実施に】

学童保育（若竹学級）は小学生の放課後を過ごす大切な事業であるとともに、働く保護者にとっても安心・安全の子育ての砦といえます。共働き世帯の増加によって、学童保育への要求は年々増え、今も増え続けています。

この間、議会で何度も取り上げ、時間の延長やプレハブ教室の新設などを実施してきました。しかし、なお時間延長や保育内容指導員の待遇改善など要求は多く、改善しなければならないことは多くあります。

特に、土曜日の開設は第2、第4の2回のみにとどまっており、使い勝手の悪さもあって利用されていません。すべての土曜日の開設をと求めました。また、指導員の待遇改善についても正規職としての登用と位置づけを急ぐよう求めました。市長は希望すれば入れることをはじめ、より良い学童保育をめざし予算配分をすると答えました。

「文化会館」については次号で詳しくお知らせします。

四季の郷のリニューアル計画づくりは誰がする？

農業公園として山東地区に整備された「四季の郷」をリニューアルするための基本計画づくりに、市は1000万円のお金を使ってコンサルタント会社へ委託しようとしています。「四季の郷」を利用するのは市民。これまで足を運んで実際に利用した市民の声をどれだけ反映するかが一番大切なことではないでしょうか。市民参加の下での計画づくりをするよう求めました。

お知らせ

無料法律相談

7月26日(火) 13:00~

森下佐知子事務所

(津秦53和歌山ソーイング)

※事前に予約のお電話をお願いします

Tel 435-1113

(共産党市議団 控室 森下佐知子まで)

6月定例市議会で全議員の創意により設置 「伏虎中学校跡地活用に関する特別委員会」

経過説明

和歌山市は、本町小学校、城北小学校、雄湊小学校を統廃合し伏虎中学校とともに小中一貫校を建設しています。伏虎中学校の跡地に市民会館を移転させるための計画も同時に進んでいます。

ところが、昨年、県立医大に薬学部を新設するとして、その建設場所を伏虎中学校へという話が舞い込んできました。

しかし、ここは市民会館を新設するための敷地面積で一杯です。そもそも、なぜ、どこでそんなことが持ち上がったのか、原点に戻って考えてみようという目的で「跡地活用に関する特別委員会」がこの6月議会から始まりました。この委員会には私、森下さち子と姫田高宏議員が入りました。



知事の誘導？

問われる市の姿勢、

市民の声はどこに？

昨年、10月30日に県と市が行う「連携会議」の中で知事が「伏虎中学校の跡地に薬学部を持ってきたらどうかと勝手に検討させてもらっている」と発言していたこと、

市長はそのことを受けて、次の会議で「薬学部は伏虎中学校でお願いします」と依頼していたことが、特別委員会の審議で明らかになりました。「日本一の市民会館を建設することが最優先だ」と答えてきた市の姿勢が問われます。次回8月4日に第2回目の特別委員会が開かれることになりました。みなさんの意見も大いに反映させていきたいと思えます。

「さっちゃんはね・・・♪」

森下さち子のブログ sachikogo.exblog.jp (6/25) より

先日、ひがし9条の会の「第9回総会と文化の集い」に参加しました。第2部は「うたごえ9条の会」の井澤慶三氏を迎えての文化の集い、『童謡に見る文化と戦争の影』と題して、私たちが日ごろ何気なく歌っている童謡や唱歌の時代背景、そして詩の意味を語っていただきました。



たとえば「紅葉」は、明治44年にゴールデンコンビと言われた高野辰之と岡野貞一の作詞作曲で、他にも「故郷」「朧月夜」「春の小川」などがありますが、戦中は戦意高揚につながらないという理由で歌うことは許されず、教科書から削除されたとのことでした。

また、「あの町この町」は大正13年、野口雨情 中山晋平作詞作曲ですが、日本が暗い時代に入っていこうとするときのもの。「今来たこの道 かえりゃんせ」という歌詞に詩人の思いが込められていると言います。

さらに「たき火」は昭和16年に作られますが、即刻唄うことを禁止されます。たき火など資源の無駄遣い、敵機の襲来時は標的になる、しもやけぐらい戦地の兵士を思えば何か との理由だと。

一転、戦後は「みかんの花咲く丘」「とんがり帽子」「青い山脈」など明るい曲調に変わります。

平和であればこそ、唄いたい歌をいつでもどこでも、作ることができ、唄うことができる。小さい頃から唄ってきた童謡をみんなで口ずさみながら、改めて思った次第です。



今年の「東9条の会総会」は、オープニングの映画上映で始まりました。『シリア内戦イラム国の正体を暴く』というフリージャーナリスト西谷文和さんの作品です。シリア内戦について、そこで暮らす人々の日常がどのように破壊されているのかを詳しく知る機会となりました。さらにシリア問題は単なる宗教や民族間の対立ではなく、それを利用し

て戦争を拡大させ、兵器で儲けをたくらむ大国の思惑が絡んでいることが暴露されています。空爆で手足を失った子供たち、目の前で直撃を見てしまった幼い子供が精神を侵され、焦点の合わない視線で虚空を見る姿があまりにも衝撃的でした。現地で命の危険を顧みず取材するジャーナリストの勇気、頭が下がります。と同時に、戦争の現実をもっと知らなければ、知らせなければと強く思った次第です。